

お子さまのご入園、おめでとうございます。

みどり児から今日まで、慈しみ育てこられたお子さまを、お預かりさせていただくことになりました。その責任のなんと重いことでしょう。心がふるえ、身の引き締まる思いがいたします。これから、全く新しい園、ニルスガーデンがスタートいたします。ようこそおいでくださいました。皆様の子育てのパートナーとして、私たちを加えてくださいますことに心から感謝申し上げます。

さて、当園は0、1、2歳各4名が定員のとても小さな園です。園庭にはたくさんの実のなる木があり、ガーデンという名前をつけるきっかけになりました。小さい園だけれども、保育の内容は最高のものを目指そう、そんな意気込みでつくりました。小さな小さな園で、でも最高の保育を目指そう、そう思って作りました。そうして、ここまでこだわった園もそうはあるまいと自画自賛も実はしておりました。が、実は、ずーっと昔、今から39年前に、そんな園があったのです。それは、当園を運営する社会福祉法人「吉竹福祉会」の母体となった、「よしたけ保育園」です。

よしたけ保育園は、私の父が始めた保育園です。といっても、当園のような、専用の園舎があったわけではありません。園舎は、私が少年時代を過ごした実家です。僕が4歳のころに、我が家は突然保育園になったわけです。それまで、小松市立の保育所に行っていた僕は、年中組の4月から急に、保育園ではなく、我が家の一室に行くことになるわけです。

よしたけ保育園の開始の時の園児数は6人、大人は、父を入れて3人でした。どこからどう見ても普通の家、そこを保育園ですと言って、園児募集のチラシをもって近所をまわっていたそうで、ときにはあれが保育園だと、と陰口を叩かれることもあったそうです。けれども、子どもにとって、そして働くお母さんにとって一番の場所にしたいという情熱を持って、保育を続けたのでした。もちろん無認可です。始めてから10年間は園長である父は無給でした。10年経って、ようやく認可がおりた頃には、園舎は増築に継ぐ増築で、たくさんの子どもたちが集う、大きな大きな園となりました。現在、私たち吉竹福祉会の運営する認定こども園は全部で5か所、それから、放課後児童クラブ、さらにこのニルスガーデンと、お預かりするお子さまは、法人全体で1,000名を超える、児童福祉の法人としては、県内最大の社会福祉法人となりました。

今の時代、こういう保育がいいのではないか、いやこうの方がいいのではないかと色々な人たちが議論をし、日々保育や子育ての方法論が登場します。ゲームはさせない方がいいとか、いやさせた方がいいとか、あるいはまた、英語やらなんやら、小さい時からしっかりやった方がいいとか、いやまずは母国語をしっかりとやったことであるとか、日々色々な人が色々なことをいいます。結局どうすればいいのか、わからなくなります。たくさんの学者が研究して意見が一致しないのであれば、きっとどちらにも正しいところがあるのでしょうし、子どもというものは、(それは私たち大人もそうなのですが) 本当にそれぞれ違ってきますから、こちらのお子さんには合うけれど、こちらのお子さんには合わないということがたくさんあるということなのだと思います。

とはいえ、それだけではなく、やはりこれだけは外せないというものがあるのではないかと、ということも

分かってきました。世界中で小さな子ども時代からどんな育ちをしたらどうなるかという追跡調査が行われ、どうもこれは欠かせないという要素がやはり幼児期にはある、ということが分かったのです。それは、実は、私たち吉竹福祉会が、設立の当初から、およそ40年にわたって言い続け、そして日々の保育の中で実践し続けてきたことです。

ニルスガーデンの保育目標は3つありますが、その第一番目は、「愛されているという思いを育てましょう」というものです。

愛されているという思い、これを育てることが、この幼児期に何よりも大切なことであると、私たちは考えています。どんなに他のことができて、それこそ、どれだけ英語が話せて、漢字が書けても、この思いがなければ、全ては虚しいものになります。逆に、この思いをしっかりとこの幼児期に育てることができていれば、子供はどんどんと伸びていきます。

愛されているという思い、これは自己肯定感とも言われますが、自己肯定感とはちょっと違う概念ではないかと僕は考えています。自己肯定感は、極論、一人でもある程度満たすことができそうです。魚が釣れた、獲物が取れた、そんな時にはきっと、自己肯定感は上がるでしょう。でも、愛されているという思い、これは、愛してくれる人がいなければ、絶対に育たないものです。

私たちがこの保育目標を40年間ブレずに持ち続けられたのは、根底にしっかりとした人間観・子ども観を持っているからです。

私たちの人間観・子ども観は、「子どもは、神様に必要とされてこの世に生まれてきた存在である」というものです。子どもの価値は、周りの人が決めるのではない。子どもは、神様が最初から価値のあるものとして、この世に送ってくれたものなのです。このように考えると、何かができるとかできないとか、優れているとかいないとか、そういったことを超えたところに、人の価値があるということが実感できます。私たちの保育は全て、この人間観・子ども観から出発しています。

ニルスガーデンに来られるお一人お一人に、愛されているという思いが育ちますよう、心を込めて保育をいたします。

「かわいがりましょう。そうすればやさしくなります」

を合言葉に、みなさまの子育て応援団として、出会わせていただいたことを深く受け止め、いっしょけんめいがんばります。かけがえのない「幼き日」に関わらせていただけることへの感謝と畏れを忘れない職員集団でありたいと思います。

(ニルスガーデンだより 2020年4月)